

# 2024年4月3日掲載 河北新報

## 人材確保へ新研修所

### 第一貨物、24年問題で対策

天童

運送業大手の第一貨物（山形市）が、トラック運転手をはじめとする人材の



仮想の物流センターがある実技棟

採用強化を目的に、新研修所を山形県天童市に整備した。残業規制強化で物流停滞が懸念される2024年問題を背景に、人手確保や倉庫業の拡大に向けた教育環境の充実を図る。

関係者向けの内覧会を1日に開いた。築50年を迎えた旧研修棟に隣接する約2万5000平方メートルの敷地に、鉄筋コンクリート2階の研修棟を建てたほか、実技を行う訓練棟を新設した。

研修棟は、旧施設では相

部屋だった宿泊室を個室化し、71人を収容する。女性社員の増加に対応し、女性専用エリアも新設した。実技棟には業界内では珍しい仮想の物流センターを設け、倉庫での在庫管理業務などを体験できる。

24年度の新卒入社は102人。21年度以降は毎年100人超を確保しているが、20年度までは30人前後と2桁台にとどまっていたという。運転手の高齢化や中途採用者の離職率の高さが課題となっており、採用

の専門チームを設置して全国の高校1000以上を訪問するなどしてきた。

採用増には倉庫営業を本格化させる狙いもある。残業規制で一度に運べる距離が短くなることから、荷主から中継地点となる倉庫を利用したいという依頼が増加している。同社は22、23年に北海道や首都圏で計3つの物流センターを相次いで開業。専門人材が必要となるため、実技を交えた研修で丁寧な育成を図る。

同社の松田伸三常務（管理本部長）は「採用強化と教育内容の充実を通じて荷主のニーズに対応できる体制を整え、（24年問題という）ピンチをチャンスに変えていきたい」と話す。